

日本福祉大学COEプログラム  
Working Paper Series, WP-2007-01-J

移行経済下におけるモンゴル遊牧農家のリスク対応手段の開発

2007年12月1日

岡本真理子

岡本真理子

日本福祉大学COE共同研究者（日本福祉大学福祉経営学部准教授）

[nfu-coe@nihonfukushi-u.jp](mailto:nfu-coe@nihonfukushi-u.jp)

## 移行経済下におけるモンゴル遊牧農家のリスク対応手段の開発

### 抄録

モンゴルは、1990年を前後して市場経済と民主主義へ移行してきたが、旧ソ連邦からの支援と強い影響下にあった生産システムの崩壊の中で、都市住民も遊牧農家も失業や物価高騰などの変動に晒された。国家によるセーフティネットは制度上存続してはいたが十分機能しなかった。その後、受益者も負担する保険制度など社会保障制度の再構築が行われている。また、市場経済が提供する新たなチャンスを活かせる都市住民には、民間の金融機関がマイクロファイナンスを提供して、その資金ニーズや貯蓄ニーズに迅速に応じている。

しかし新たな協同組合に自己組織化できていない多くの遊牧農家は、旱魃や凍害の直撃を経験し、遊牧農家固有のリスクが顕在化した。この問題が解決しないと、畜産が主産業の辺境地域でのマイクロファイナンスも成り立たない。では、遊牧農家にとってどのような保険制度がありうるのか？本論文では、移行経済下の遊牧農家のリスクを緩和する手段として、既にパイロット事業として始められているインデクス型保険を検討し、個人・市場・国家の三者の共同による事後的なリスク緩和制度の意義を明らかにした。しかし地域の地場産業再興による多様な所得機会の創出や、事前的リスク緩和を可能とする何らかの遊牧農家組織が無ければ、リスク緩和の範囲が限られることも明らかにした。

キーワード：移行経済、遊牧民、リスク、保険